100m×1800m

祭りに寄与した建築の設計

渋谷 昂平
福屋研究室

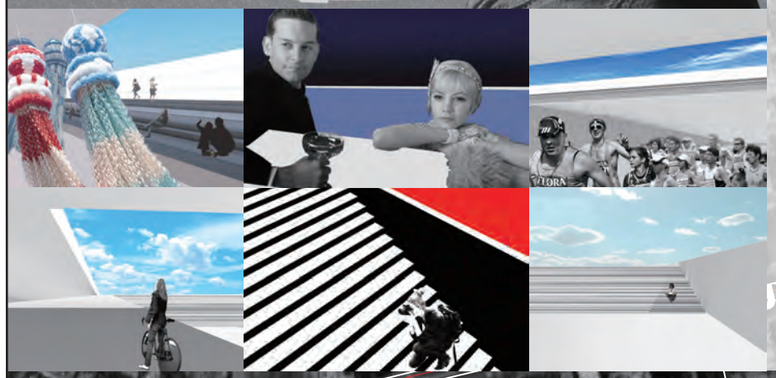
設計主旨

私自身が地元の祭りで体験した建築的操作を、仙台に落とし込ませ仙台の祭りに寄与した新しい都市を提案する。

『毎年お盆に、町の中心部にある広場で「仮装盆踊り」が行われている。中心にやぐらが建てられその周りで踊る。祭りが終わると元の広場にもどる。

しかし、その広場に新しく建物が建てられたためにやぐらが建てることができなくなった、結果として祭り自体が衰退した。

祭りの象徴としてあった小さい建物が消えたことで、祭りの文化自体も薄れてしまうのだとこのとき感じた。』



SITE : SENDAI

アーケード、通りなど線的な要素が強い都市でありその線要素を用い一年を通し多くの文化（祭り）がある。
それらを包括した新しい線を作ることで、都市全体を祭りにすることができると考えた。

アーケード総距離：1.6km

仙台中心部である仙台駅前では、空室率が約20％存在しており、空き地は駐車場や駐輪場となっているが利用率があがらず現状は赤字である。その都市に対し、大きなボリュームの建物を作ることで空室率に圧力をかけ、建物内部に空き地を利用してた機能を集約させる。圧力をかけたことで、都市全体を密にすることができる。

YOZENJI STREET

仙台駅から花火大会の会場まで、直線で繋ぐ。
今までになかった、祭りからくる仙台の都市の形。